

臨床検査医学

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	2 人	(0 人)
研究生	5 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	11 人	

2 教員の異動状況

前川真人 (教授) (H.13.1.1 現職)

渡邊良久 (助教) (H.19.1.16 助手；19.4.1～現職)

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	9 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	27.31	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	6 編	(6 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Furuta K, Hashiguchi T, Hidaka Y, Kang D, Ikeda K, Maekawa M, Matsumoto H, Matsushita K, Okubo S, Tsuchiya T : Evaluation of various storage conditions of laboratory testing samples. *Cryobiology* 67; 398-442, 2013. [2.137]
2. Ohba K, Oki Y, Fujita K, Kameko F, Moriyama T, Horiike Y, Morita H, Matsushita A, Iino K, Sasaki S, Nakamura H, Maekawa M : A sudden onset and the spontaneous remission of severe hypo-high density lipoprotein cholesterolemia without serious underlying disease: A case report *Clinica Chimica Acta* 426 ; 91-94, 2013. [2.850]
3. Yagi T, Naito T, Doi M, Nagura O, Yamada T, Maekawa M, Sato S, Kawakami J : Plasma exposure of free linezolid and its ratio to minimum inhibitory concentration varies in critically ill patients. *Int J Antimicrob Agents* 42; 329-334, 2013. [4.415]
4. Fujisawa T, Yasui H, Akamatsu T, Hashimoto D, Enomoto N, Inui N, Nakamura Y, Maekawa M, Suda T, Chida K : Alveolar nitric oxide concentration reflects peripheral airway obstruction in stable asthma. *Respirology* 18; 522-527, 2013. [2.781]
5. Kusagaya H, Fujisawa T, Yamanaka K, Mori K, Hashimoto D, Enomoto N, Inui N, Nakamura Y, Wu R, Maekawa M, Suda T, Chida K : Toll-like receptor-mediated airway IL-17C enhances epithelial host defense in an autocrine/paracrine manner. *Am J Respir Cell Mol Biol* 50(1); 30-9, 2014. [4.148]
6. Ide Y, Waki M, Hayasaka T, Nishio T, Morita Y, Tanaka H, Sasaki T, Koizumi K, Matsunuma R, Hosokawa Y, Ogura H, Shiiya N, Setou M : Human Breast cancer Tissues contain abundant phosphatidylcholine (36:1) with high stearoyl-coa desaturase-1 expression. *PloS One* 8(4): 1-11, 2013. [3.730]
7. Kamenoy Y, Iwata K, Matsuzaki H, Miyachi T, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Iwata Y, Suzuki K, Nakamura K, Maekawa M, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N : Serum levels of soluble platelet endothelial cell adhesion molecule-1 and vascular cell adhesion molecule-1 are decreased in subjects with autism spectrum disorder. *Mol Autism* 4(1); 19, 2013. [0]

インパクトファクターの小計 [20.061]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kosanam H, Prassas I, Chrystoja CC, Soleas I, Chan A, Dimitromanolakis A, Blasutig IM, Rückert F, Gruetzmann R, Pilarsky C, Maekawa M, Brand R, Diamandis EP : Laminin, gamma 2 (LAMC2): a promising new putative pancreatic cancer biomarker identified by proteomic analysis of pancreatic adenocarcinoma tissues. *Mol Cell Proteomics* 12(10); 2820-32, 2013. [7.251]

2. 渭原 博、渡邊敏明、橋詰直孝、戸谷誠之、上岡千介、恩田きみ子、砂原誠司、鈴木智子、板橋光春、青木芳和、石橋みどり、伊藤昭三、大橋鉦二、榎本 毅、佐伯かよ子、長村洋一、登勉、廣田晃一、藤代欣也、前川真人、三浦雅一、太田好次、宮野 博、安東敏彦、西村和子：自動分析法による血清葉酸測定値の標準化に関する日本臨床化学会栄養専門委員会の見解 SRM1955 を校正に用いた測定 臨床化学 42; 161-176, 2013 [0]

インパクトファクターの小計 [7.251]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 前川真人：腫瘍マーカー検査の最新情報
日本内科学会雑誌 102(12); 3133-3139, 2013
2. 前川真人：臨床検査における電気泳動技術の意義
医療と検査機器・試薬 36(3); 259-264, 2013
3. 前川真人:アルカリ性ホスファターゼの測定
検査と技術 41(7); 596-597, 2013
4. 前川真人:固形腫瘍関連検査
臨床検査 57(7); 720-725, 2013
5. 前川真人：HPV DNA の検出による感染の診断
産科と婦人科 80(6); 721-726, 2013
6. 渡邊良久、遺伝子検査の進歩：一般遺伝子検査 「(特集) 臨床検査値をどう読むか」
月刊 臨床と研究、90(7); 868-871, 2013

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	1 件

1. 新規分子腫瘍マーカー、特許第 5388333 号、平成 26 年 1 月 15 日

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度
(1) 文部科学省科学研究費	2 件 (640 万円)

(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	4 件	(120 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 前川真人 基盤研究（B）

胎児プログラミングのエピゲノミクスを中心としたオミックス解析による探索的研究

平成 24 年～平成 26 年、平成 25 年度 490 万円

2. 渡邊良久 基盤研究（C）

染色体構造とゲノム配列の統合にもとづく新規エピゲノム解析法の開発

平成 24 年～平成 26 年、平成 25 年度 150 万円

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

1. アイソザイム分析の自動解析システムの構築に関する研究

（株）ヘレナ研究所、H25、研究代表者、40 万円

2. クラビット点滴静注特定使用成績調査（第 10 回抗菌剤感受性年次別推移の検討）

第一三共（株）H25、研究代表者、50 万円

3. 尿中のタンパク質分析による疾患、特に悪性腫瘍のスクリーニングに関する試験研究

浜松ホトニクス(株) H25、研究代表者

4. イムライト2000XPIによるIL2R,IL6,ACTH試薬の基礎的検討

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス（株）H25、研究代表者、30 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	5 件
(3) 学会座長回数	0 件	6 件
(4) 学会開催回数	1 件	2 件
(5) 学会役員等回数	1 件	7 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

1. 前川真人 遺伝子診断コミッティ（C-MD）委員、国際臨床化学連合（IFCC）

平成 25 年 5 月、ミラノ

- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Hamada E, Inaba C, Uchiyama K, Iwahara K, Maekawa M :
Significance of routine matrix metalloproteinase-3 (MMP-3) measurement for follow-up of patients with rheumatoid arthritis, using PANACLEAR MMP-3”Latex” and Hitachi LABOSPECT008
2013 American Association of Clinical Chemistry Annual Meeting, Houston USA, 31 July 2013
2. Hamada E, Noji K, Maekawa M :
Analytical evaluation of soluble IL2- Receptor, ACTH, GH Measurement by Automated Immunoassay System ”IMMULITE 2000XPI”
2013 American Association of Clinical Chemistry Annual Meeting, Houston USA, 31 July 2013
3. Hamada E, Maekawa M :
Evaluation of PANACLEAR MMP-3”Latex”a reagent for Hitachi LABOSPECT008
20th IFCC-EFLM European Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine
Milan Italy, 19 May 2013
4. Iino K, Oki Y, Hamada E, Yamashita M, Yogo K, Shibata S, Ohishi T, Kakizawa K, Maekawa M,
Risk reductions of arteriosclerosis by normalization of hyperaldosteronism state. -Evaluation with the use of both intima-media thickness (IMT) of carotid artery and biochemical markers-
2013 ENDO Annual Meetings San Francisco, USA, 15 – 18 June, 2013

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
 1. 第 20 回日本遺伝子診療学会大会
平成 25 年 7 月 18 日～7 月 20 日 浜松市
 2. 第 24 回日本臨床化学会東海北陸支部総会・
第 32 回日本臨床検査医学会東海北陸支部例会連合大会
平成 25 年 7 月 20 日 浜松市
- 2) 学会における特別講演・招待講演
 1. 前川真人 チーム医療に求められる臨床検査技師
第 24 回生物試料分析科学会年次学術集会
平成 26 年 3 月 1 日 三重市
- 3) シンポジウム発表

1. 前川真人 エピジェネティクスと臨床検査
第 53 回日本臨床化学会年次学術集会
平成 25 年 8 月 30 日 徳島市
2. 前川真人 外部精度管理を検査室運営にどう生かすか
日本臨床検査専門医会第 23 回春季大会 安全講習会
平成 25 年 6 月 28 日 足柄下郡箱根町
3. 前川真人 血清酵素検査で見出された異常データの電気泳動解析
第 60 回日本臨床検査医学会学術集会
平成 25 年 11 月 1 日 神戸市
4. 前川真人 臨床検査のガイドライン JSLM2012 の活用法 ～改訂のポイントを一刀両断～
第 60 回日本臨床検査医学会学術集会
平成 25 年 11 月 1 日 神戸市
5. 前川真人 電気泳動技術の臨床的意義
第 64 回日本電気泳動学会総会
平成 25 年 11 月 15 日 仙台市

4) 座長をした学会名

1. 前川真人 第 60 回日本臨床検査医学会学術集会
2. 前川真人 第 53 回日本臨床化学会年次学術集会
3. 前川真人 第 64 回日本電気泳動学会総会
4. 前川真人 第 45 回日本臨床検査自動化学会
5. 前川真人 第 20 回日本遺伝子診療学会大会
6. 前川真人 第 53 回日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 前川真人 日本臨床化学会（国際交流委員会委員長、酵素試薬委員会副委員長）
2. 前川真人 日本電気泳動学会（会長）
3. 前川真人 日本遺伝子診療学会（副理事長）
4. 前川真人 日本臨床検査医学会（副理事長）
5. 前川真人 日本分子腫瘍マーカー研究会（世話人）
6. 前川真人 日本臨床化学会東海北陸支部（幹事）
7. 前川真人 日本臨床検査医学会東海北陸支部（幹事）
8. 前川真人 国際臨床化学連合（IFCC）、遺伝子診断コミッティ（C-MD）（member）

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2 件	2 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

1. 前川真人 Japanese Journal of Clinical Oncology Editorial Board IF 有
2. 前川真人 Journal of Electrophoresis（日本電気泳動学会）Editorial Board IF 無

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. 前川真人 Clinica Chimica Acta (オランダ) Editorial Board IF 2.96
2. 前川真人 The Journal of Pediatric Biochemistry (トルコ) Editorial Board IF 無

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 前川真人 Ann Clin Biochem (イギリス) 1
2. 前川真人 Clinica Chimica Acta (オランダ) 7
3. 前川真人 JJCO (日本) 1
4. 前川真人 Seminars in Ophthalmology (アメリカ) 1
5. 前川真人 医学のあゆみ 1
6. 前川真人 臨床化学 1
7. 前川真人 臨床病理 1

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	3 件
(3) 学内共同研究	4 件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

1. 前川真人 安東由紀雄 (熊本大学医学部) トランスサイレチンに関する研究
2. 渡邊良久 池村淑道 (長浜バイオ大学) ヒト染色体 R/G-バンド境界領域の機能解析
3. 渡邊良久 正井久雄 (東京都医学総合研究所) 染色体 DNA 複製制御の分子機構の解析

(3) 学内共同研究

1. 前川真人 梶村春彦 (腫瘍病理学)
家族性腫瘍に関する研究
2. 前川真人 古瀬 洋 (泌尿器科学)
腫瘍マーカーに関する研究
3. 前川真人 瀬藤光利 (分子解剖学) 梶村春彦 (腫瘍病理学) 井手佳美 (外科学第一) 倉地清隆 (外科学第二)
循環腫瘍細胞に関する研究
4. 前川真人 渡邊裕司 (臨床薬理学) 佐藤亮介 (内科学第二)
超低出産体重児に関する研究

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	4 件

1. アイソザイム分析の自動解析システムの構築に関する研究
(株) ヘレナ研究所、H25、研究代表者、40 万円

2. クラビット点滴静注特定使用成績調査（第 10 回抗菌剤感受性年次別推移の検討）
第一三共（株）H25、研究代表者、50 万円
3. 尿中のタンパク質分析による疾患、特に悪性腫瘍のスクリーニングに関する試験研究
浜松ホトニクス(株) H25、研究代表者
4. イムライト2000XPiによるIL2R,IL6,ACTH試薬の基礎的検討
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス（株）H25、研究代表者、30 万円

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 癌の遺伝子変異に関する研究
泌尿器科癌の組織、尿を試料として、次世代シーケンサーと癌パネルを用いて遺伝子変異を網羅的に解析した。正常組織になく癌組織にある体細胞変異が、尿沈渣から抽出した DNA でいかに検出できるかについて検討中である。（谷口照美、古瀬洋、前川真人）
2. 超低出生体重児における内分泌機能に関する研究
超低出生体重児で生まれた成人の内分泌機能を調べ、興味深い結果が得られたので、論文執筆中である。（佐藤亮介、渡邊裕司、前川真人）
3. 低出生体重児のグライコーム解析
低出生体重児群と正常出生体重児群の 2 群に分けて、臍帯血血清を試料としてグライコブロッティング法により糖鎖発現プロファイルを比較検討している。（土屋賢治、前川真人）
4. 染色体構造とゲノム配列の統合にもとづく疾患エピゲノム解析
染色体構造とゲノム配列の統合的解析とその臨床応用を目指して、DNA 複製タイミンングデータベースを活用した疾患エピゲノム解析を行った。その結果、脳神経疾患遺伝子群やがん関連遺伝子群が集中して局在するヒト染色体 R/G-バンド境界の構造・機能上の特徴を明らかにした。また、染色体 R/G-バンド境界のエピジェネティックな変動は、疾患エピゲノム解析や病態診断を遂行するうえで有効な指標になり得ることがわかった。（渡邊良久、前川真人）

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

15 新聞、雑誌等による報道

1. 市民フォーラム「ここまできた！ここまでわかる！！こんなこともできる！！！遺伝子医療」
第 20 回日本遺伝子診療学会大会主催、7 月に浜松市で
教育医事新聞、平成 25 年 6 月 25 日
2. 遺伝子医療の最前線解説 遺伝子診療学会市民フォーラム
静岡新聞、平成 25 年 7 月 18 日
3. 講演会
市民フォーラム「ここまできた！ここまでわかる！！こんなこともできる！！！遺伝子医療」

中日新聞、平成 25 年 7 月 19 日

4. 講演会

市民フォーラム「ここまでのきた！ここまでのわかる！！こんなこともできる！！遺伝子医療」

読売新聞、平成 25 年 7 月 12 日

5. 最新の遺伝子医療解説 中区で市民フォーラム

静岡新聞、平成 25 年 7 月 21 日